

第6学年 道徳学習指導案

1 主題名 病気に対する差別や偏見に立ち向かう ～ある新潟水俣病患者の訴え～

4－(2) 公平・公正、正義の実現

2 主題について

熊本県水俣湾沿岸で水俣病が確認されてから9年後、新潟県の阿賀野川流域で第二の水俣病が発生した。発生から40年以上経過しているが、その間、患者とその家族は病苦と闘いながら、社会の中傷、偏見、差別に耐えて生きてきた。結婚・就職差別、地域の分断・反目、補償金へのねたみなど心理的・社会的な苦痛は、今日においてもなお完全に解決されたとは言えない。

本学習は、「ある新潟水俣病患者の訴え」（新潟県同和教育協議会 小学校高学年用副読本『生きるⅢ』所収）を資料とする。この資料では、新潟水俣病のために生じた差別と偏見に苦しみながらも、必死に生きてきた患者とその家族の話が紹介されている。この資料により、患者が受けた病苦や差別・偏見の大きさを知るとともに、「わたし」の憤りに共感させ、差別・偏見の解消に向かって立ち上がろうとする児童の心の高まりに期待したい。

3 ねらい

新潟水俣病の原因追究や公害病認定に向けて懸命に取り組んできた人々の生き方を学ぶことで、新潟水俣病により体も心も、そして家庭さえも壊された患者が受けた差別や偏見に憤るとともに、病気に対する差別をなくしていこうとする心情を高める。さらに病気に対する差別を許さず、ともに立ち上がろうとする気持ちを高める。

4 展開のための視点

本学習は2時間扱いとする。第1時は、資料「ある新潟水俣病患者の訴え」の1～3を、第2時では4～5をもとに学習指導を行う。

第1時は、本学習の導入として、新潟水俣病関連の写真を提示し、児童に新潟水俣病のあらましについて想起させる。資料1～3からは、身体的被害にとどまらず、生活・経済的、社会的被害の厳しさを具体的に読み取らせ、患者差別に対する憤りと差別解消への思いを高めていく。

第2時は、「新潟水俣病訴訟」という舞台にたった「わたし」の行動を読み取ることで、差別や偏見にどう立ち向かい、どういう生き方を選択していったのかを考えさせる。この「わたし」の差別や偏見との闘いへの周りからの支援が、いかに「わたし」を勇気付け、立ち上がる意欲や意志の継続につながっていったかに気付かせ、「わたし」のように病気で苦しんでいる人々への自分なりのかかわり方について考えさせる。

終末では、困っている人の身になり一緒に行動できるような気持ちを書き表す児童の内面の高まり、さらには新潟水俣病だけではなく、さまざまな病気に対する差別や偏見をなくしていくという思いを決意する児童の姿に期待し、「わたし」への励ましの手紙を書く活動を取り入れる。

5 展開例

第1時

(1) ねらい

新潟水俣病の原因追究や公害病認定に向けて懸命に取り組んできた人々の生き方を学ぶことで、新潟水俣病により体も心も、そして家庭さえも壊された人々が受けた差別や偏見に憤り、病気に対する差別をなくしていこうとする心情を高める。

(2) 展開

○学習活動●学習内容□主な発問	◇指導上の留意点	資料	配時 (分)
○写真や地図を見て、新潟水俣病が発生した地域や病気の症状を想起し、発表する。	◇これまでの新潟水俣病の学習が想起できるような資料を用意し、必要に応じて提示する。	・患者（被害者）や工場の写真 ・発生地域の地図	5
□ 新潟水俣病が発生した地域はどのあたりだったのでしょうか。また、どんな症状だったのでしょうか。			
●新潟水俣病は、高度経済成長期に上流の化学工場がメチル水銀を含んだ工場排水を阿賀野川に流し、これに汚染された川魚を多く食べたことが原因で発生した中毒性の神経系疾患である。	◇「いつ頃、どこで、原因は」などの補助発問により県内で発生した公害病であることを再確認する。		
○資料を読み、差別を受けた「わたし」の苦しみやその背景について考える。	◇教師がリードして音読し、ポイントになる語句について説明を加える。	・資料「ある新潟水俣病患者の訴え 1、2、3」	30
□ 「わたし」を「心も体もぼろぼろの状態」にしたのは何だったのでしょうか。			
●水銀による様々な中毒症状とともに、仕事や家庭生活、思い通りにできない子どもの世話などが重くのしかかってきた。	◇時間の経過や考えの根拠が分かるところに、サイドラインを引くなどの配慮をする。 ・心も身体もボロボロ ・つらい日々を送る…		

○学習活動●学習内容□主な発問	◇指導上の留意点	資料	配時 (分)
○「わたし」の心や体、家庭を壊した原因を考え発表する。			
□ 「わたし」の心や体、家庭を壊した原因は何ですか。			
●旧昭和電工からの工場排水に含まれていた水銀による中毒症状が原因だった。			
○認定を求めて活動を始めた後の「わたし」がますますつらい日々を送る背景をとらえ、発表する。			
□ 認定を求めて活動を開始してから「ますますつらい日々を送らなければならなくなった」理由を考えましょう。			
●つらい日々を送る背景には周囲の差別や偏見、蝕まれた健康とともに、経済的な貧困、認定・非認定の家族内での不公平感などがあった。	◇「わたし」の受けた苦しみやその原因、さらに「ますますつらい日々」を送らざるをえなかった背景などが視覚的、構造的に分かるような板書の工夫をする。		
○「ますますつらい日々」となった「わたし」の気持ちを想像し、ワークシートに書く。		・ワークシート1	
□ 「ますますつらい日々」となった「わたし」の気持ちを考えましょう。			
●体の状態だけでなく、病気や認定を求める活動に対する無理解、冷たい目、同じ生活をしているのに差別されることの不平等感など、患者の気持ちを一層つらい気持ちにした。	◇「わたし」のイラストなどを活用し、吹き出し形式にすると書きやすい。		

○学習活動●学習内容□主な発問	◇指導上の留意点	資料	配時 (分)
○学習を振り返り、患者に対する見方や考え方、決意などを作文シートに書き発表する。		・ワークシート2	10
□ 学習を振り返り、新潟水俣病患者に対する差別や偏見について考えたことや決意を作文シートに書き、発表しましょう。			
●患者差別に対する憤りをもち、病気に対する差別を解消しなくてはならない。			

《評価》

新潟水俣病被害者が受けた病苦や差別・偏見の大きさを理解し、新潟水俣病をはじめ病気に対する差別や偏見を許さない気持ちが高まっている。(終末の作文シートから)

第2時

(1) ねらい

新潟水俣病被害者が病苦や差別・偏見に負けず、裁判を続けることができた背景について考え、新潟水俣病被害者が立ち上がり闘い続けるには、周囲の人々の理解と支援が必要なことを理解し、病気に対する差別を許さず、ともに立ち上がろうとする気持ちを高める。

(2) 展開

○学習活動●学習内容□主な発問	◇指導上の留意点	資料	配時(分)
○資料4、5を読み、「わたし」のその後の行動を読み取る。	◇板書を再提示するなど前時を想起する工夫をする。	・資料「ある新潟水俣病患者の訴え4、5」	5
□ 資料4、5を読み、「ますますつらい日々」を送っていた「わたし」は、その後どんな行動をとることになったのでしょうか。			
●新潟水俣病訴訟の舞台に立ち、共に活動する人の輪を広げた。			
○訴訟の舞台に立った「わたし」の決意や苦しみについて考える。	◇「わたし」の行動や気持ち、受けた差別や偏見が構造的、視覚的に分かるように板書を工夫する。		30
□ 「新潟水俣病訴訟」の舞台に立つことになった「わたし」の決意や「わたし」が受けた差別や偏見はどのようなものでしたか。また、そのときの「わたし」の気持ちもあわせて考えましょう。			
<ul style="list-style-type: none"> ● 「私の病気が水俣病でないのなら何なのだ、それが知りたい。」と決意した。 ● 訴訟を起こしたことで、補償金目当て、娘への中傷、水俣なら黙っている・・・といった差別、中傷を受けた。 ● 真実を知るために、がんばりぬく覚悟で取り組み、支援の人たちに応えたい。 	◇「わたし」が差別や偏見にどう立ち向かい、どういう生き方をしていたのか着目させる。また、周りからの支援の「わたし」に与えた影響についても気付かせたい。		

○学習活動●学習内容□主な発問	◇指導上の留意点	資料	配時 (分)
○「わたし」が新潟水俣病訴訟を闘い続けることができた理由を考え発表する。		・ワークシート3	
□ 「わたし」が病気の苦しみや差別、偏見に負けず、生きていくことができた理由をワークシートに書き、発表しましょう。			
●公害を二度と起こさないで、またこの苦しみを自分の代で終わらせたという願い、公害病の教訓を後世に伝えたいという思い、支援者や仲間の励ましによって裁判を継続できた。			
○病気で苦しんでいる人へどう接するべきかを考え、ワークシートに書き、意見を交換する。		・ワークシート4	
□ あなたの周りに「わたし」のように病気や差別で苦しんでいる人がいたら、あなたはどう接するべきだと思いますか。			
●差別を許さず、ともに行動しようとする必要がある。	◇意見の違いが明確になるように板書を工夫する。 ◇「傍観者的な意見」についての考えを深め合うようにする。		
○2時間の学習を振り返り、「わたし」へ励ましの手紙を書く。		・手紙用便箋等	10
□ 今までの学習を振り返り「わたし」へ励ましの手紙を書きましょう。			
●新潟水俣病をはじめとする病気に対する差別や偏見を許さず、患者（被害者）に寄り添い、ともに行動しようとする気持ちが深まる。	◇一緒に行動しようとする意欲、差別や偏見をなくしたいという児童の内面的思いを大切にしたい。		

《評価》

新潟水俣病など病気に対する差別や偏見を許さず、被害者に寄り添い、ともに行動しようとする気持ちに高まる。(終末の手紙から)

【資料】

- ・資料「ある新潟水俣病患者の訴え」

(新潟県同和教育協議会 小学校高学年用副読本『生きるⅢ』所収)

- ・ワークシート1「ある水俣病患者の訴え」
- ・ワークシート2「ある水俣病患者の訴え」
- ・ワークシート3「ある水俣病患者の訴え」
- ・ワークシート4「ある水俣病患者の訴え」

第1時

新潟水俣病とは？

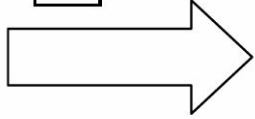
- いつ頃
40年以上前
- どこで
阿賀野川流域
(新潟県)
- 原因は？
旧昭和電工から
のメチル水銀
- 症状は？
手足のしびれ、
全身の麻痺、
死に至ることも
ある。
- <写真>
- <地図>

「心も体もぼろぼろの状態」にしたのは何だったのか？

- <体> 手足のしびれ、首腰の痛み、頭痛、耳鳴り、めまい、不眠、疲れ
- <心> 仕事の失敗、順調にいかない家事、両親の世話、夫との不仲、ぎくしやくする家庭、離婚の危機、私をたよる3人の子ども

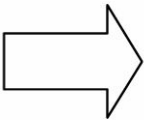
原因は？ 旧昭和電工、工場排水、メチル水銀

公害病を認めさせる (認定の) 裁判の後



「ますますつらい日々」となった「わたし」の気持ちを想像してみよう。

- 体が思うように動かなくてイライラしている。
- 病気に對して理解してもらえず悲しい。
- 冷たい周囲の態度にもう裁判を止めたい。
- 経済的に苦しくて子どもにも申し訳ない。
- 同じ生活をしているのに両親だけ認定されて夫と「わたし」が認定されないのは不公平。



「ますますつらい日々」となった理由は？

- <周囲の無理解> 話を聞いてもらえない苦しみ
- <周囲の差別・偏見> ねたみや陰口、冷たい態度
- <身体> 病気の進行、思うようにいかない仕事
- <経済的困窮> 定年前の退職、経済的な苦しさ
- <家族内の不公平感> 家族間での認定・未認定

新潟水俣病被害者の苦しみや差別、偏見について考えたことや決意は？

- 病気は体ばかりでなく心も苦しめる。
- 病気の人への差別は絶対いけない。
- 当事者の気持ちになって考えなければならぬ。
- 差別に負けず立ち上がる勇気が必要。

第2時（本時）

「ぼろぼろの状態」、認定のたたかい、「ますますつらい日々」

「新 潟 水 俣 病 訴 訟」の 舞 台 に

<「わたし」の覚悟・決意>
 「わたしの病気が水俣病でないのなら何なのだ」
 それを知りたい。

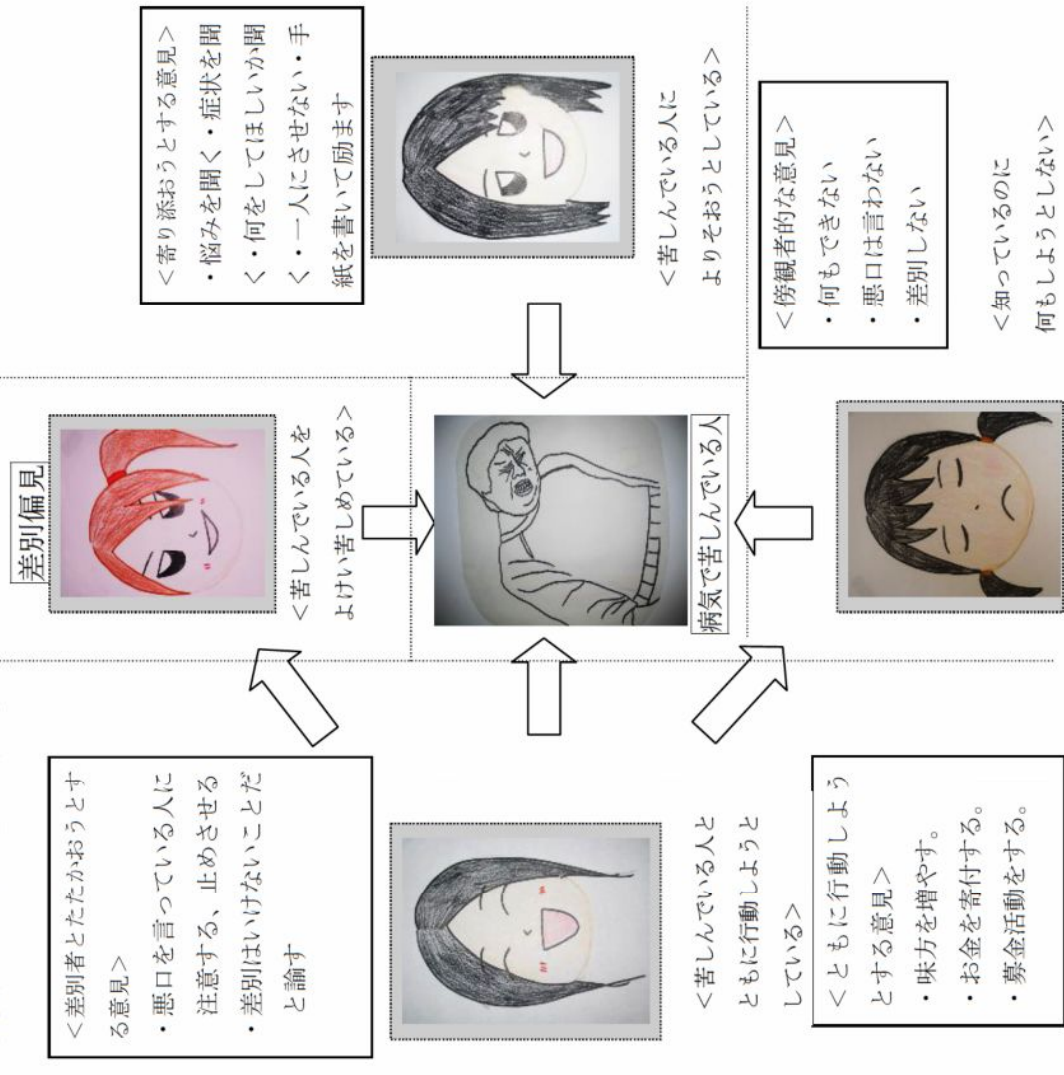
<周囲の差別・偏見>
 「補償金当て」「娘への中傷」
 「みなまたなら黙っている」
 <「わたし」の気持ち>
 真実を知りたい。がんばり抜く覚悟。
 苦しみには負けない。
 支援の人たちに応えたい。

このような差別・偏見の中で生きていくことができた背景
 (理由)

- ・「公害を二度と起こさないで」という願い
- ・後世に伝えていかなければという思い
- ・わたしの代で終わらせたいという願い
- ・仲間の支援や支援者からの励まし

「わたし」へ励ましのお便り書いてみましょう。
 ・体や心がぼろぼろになっても差別や偏見に負けず頑張ってた
 がかい続けている姿に感動した。
 ・病気に対する差別や偏見のない世の中にしていきたい。

あなたの周りに「五十嵐コシミさん」のように病気や差別で苦しんでいる人がいたら、あなたは
 どう接するべきだと思いますか。

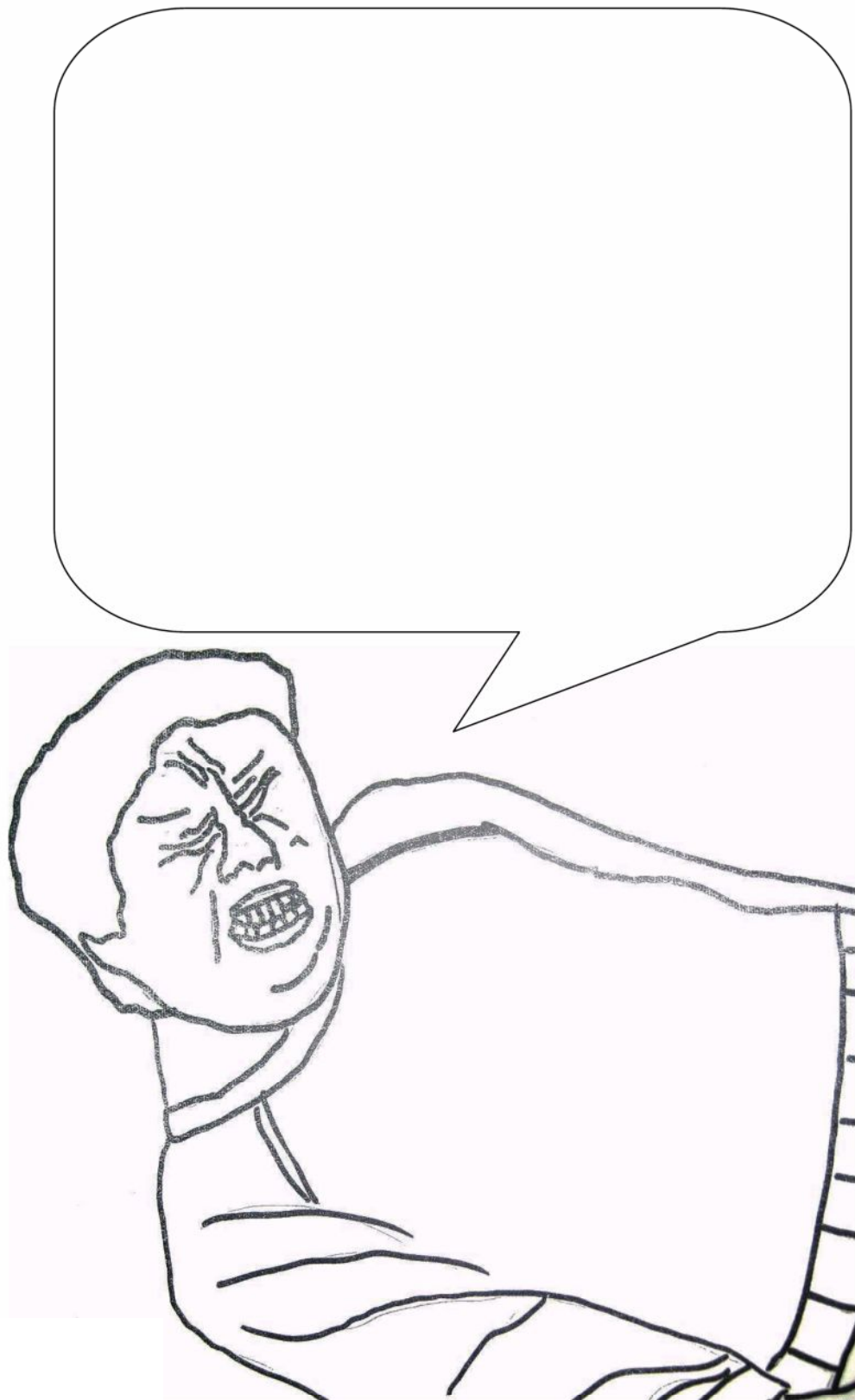


7 資料

○ワークシート1「ある水俣病患者の訴え」

名前

「ますますつらい日々」となった「わたし」の気持ちを考えましょう。



名前

水俣病やいろいろな病気の人に対する差別
や偏見について思ったことを書きましょう。
(かじょう書きでもいいです。)

○ワークシート3「ある水俣病患者の訴え」

名前

五十嵐コシミさんが、差別^{さべつ}や偏見^{へんけん}の中でも負けずにたたかうことができた理由^{りゆう}（支え^{ささえ}）を考えましょう。

<p>・心の支え</p> <p><コシミさんの強い思いや願い></p>	<p>・</p>
<p>・ の支え</p> <p>から</p> <p>< ></p>	<p>・</p>

名前 _____

あなたの周りに五十嵐コシミさんのように病気で困っている人がいたら
あなたはどうすべきだと思いますか？ かじょう書きでたくさん書きましょう。



※友だちの意見を聞いて、新しく思いついたことを書きましょう。 ↓